

子どもに対する暴力撤廃

—グローバル・パートナーシップ—



**End Violence
Against Children**
THE GLOBAL PARTNERSHIP

子どもにやさしい
バージョン

オリジナル版制作・発行：

Global Partnership to End Violence Against Children

“End Violence Against Children | The Global Partnership | STRATEGY 2016-2020 | YOUTH EDITION”

<https://www.end-violence.org>

2016年 初版発行

日本語版発行：

外務省国際協力局民間援助連携室

「平成30年度 外務省NGO研究会（SDGs16.2子どもに対する暴力撤廃とNGO）」

日本語版制作：

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

Tel : 03-5334-5350 Fax: 03-5334-5359

<https://www.worldvision.jp/>

監訳：

特定非営利活動法人 ACE、特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン、特定非営利活動法人 国際子ども権利センター、特定非営利活動法人 ヒューマンライツ・ナウ、国際人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ、特定非営利活動法人 プラン・インターナショナル・ジャパン、公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、公益財団法人 日本ユニセフ協会

はじめに

この「戦略」文書は、「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ」が今後数年間で成し遂げようとしている計画を述べています。

暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップとその基金は、この活動を子どもの参加を得ながら進めるとしているため、この「子どもにやさしいバージョン」の冊子を作成しました。私たちの若いメンバーとパートナーにとって役立つことを期待しています。そして意見やフィードバックを歓迎します。



前文

暴力から守られなければならない、というすべての子どもの基本的権利を、私たちは、グローバルコミュニティとして、どれ程しっかり満たしているのでしょうか。決して十分ではない、これが悲しい真実です。

5分に1人、子どもが暴力によって命を失っています。

毎年、少なくとも10億人の子どもたちが暴力を目撃しています。

5人のうち4人の子どもが、家庭で暴力的なしつけを受けています。

15歳から19歳の少女・女性の5人のうち1人が、身体的暴力の犠牲者になってきました。

10人のうち1人以上の少女たちが、性的暴力の犠牲者になってきました。

そして2億4千万人以上の子どもが、暴力的な紛争の続く国々で暮らしています。あまりにも多くの子どもたちが、戦争の恐怖の犠牲者、目撃者となり、避難を余儀なくされています。

これらの数字の背後には、生身の子どもたちがいます。安全で保護されるべき子ども時代の権利が侵害され、より良い未来へのチャンスが奪われてきました。子どもに対する暴力は、身体的、心理的な傷になるだけではありません。暴力は、非常に深刻なストレス—有害なストレス—を作り出すことで、子どもたちの身体と脳の健全な成長をむしばみ、病気などにかかりやすくし、成人したときに潜在能力を十分に発揮することを困難にします。

そして、暴力を伴う人生経験によって、暴力は当たり前で、正当化され、容認され得るものだと教えられた子どもたちは、成人してもこの信念を抱き続けるかもしれません。このことは、彼らの家族、コミュニテ

ィ、そして社会において暴力が続いていくことを意味します。

そのため、私たちは子どもを暴力から守る時、彼らの健康と成長を支援するだけではありません。彼らの社会をより良いものとし、経済の成長を助け、そして結局、彼らの国をより強くより安全にしているのです。もし子どもを暴力から守ることができなかつたら、私たちはその結果に直面することになるでしょう。

持続可能な開発目標(SDGs)は、暴力から子どもを守ることで、より平和で繁栄した社会を築くことの中に、基本的なつながりを作り出します。子どもに対するどのような形の暴力にも終止符を打つことを目標とすることは、危険にさらされている何百万人もの子どもにとって、転換点となり得ます。しかしこのことは、これらの目標を達成しようという約束に行動が伴ったときに初めて実現します。政府による行動だけではなく、すべての人による行動です。

持続可能な開発のための目標 (SDGs) とは？

2015年9月、世界のリーダーたちは、持続可能な開発目標 (SDGs) を約束しました。続く15年間で3つの特別なことを達成するための17のゴールです。それは、極度の貧困を終わらせること、格差と不公正と戦うこと、気候変動を修正することです。そして、あらゆる形態の子どもに対する暴力を予防し対応するというターゲットも含まれています。この冊子の後半に、より詳しい情報を載せています。



子どもに対する暴力はすべての社会が共有する問題であり、解決策も共有されなければなりません。解決策は家庭によって共有されるべきです。家庭は暴力からの最大の保護になり得ますが、同時に最大の危険の源にもなり得ます。

コミュニティによっても共有されなければなりません。コミュニティは、子どもを危険にさらす有害な行為を変え責任を取らなければならないからです。

そして、さらに広範囲な社会—政府、組織、宗教指導者、メディア、企業など—によっても共有されなければなりません。彼らの活動は社会のすべての人々の姿勢に影響を与え得るからです。そして彼らの支援は、数百万人の子どもたちに変化をもたらすことができるのです。

組織とは何でしょうか？

組織は、社会がよりよく運営されて人々が安全を感じるようにするために設立されるものです。学校、牢獄、孤児院、教会、保護のための施設、慈善団体、警察、法廷、軍隊など様々なものがあります。

「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)」は、国、市民社会、国際連合、教育者、子ども自身、そして企業が共有する責任を具体的な行動に移すために、立ち上げられました。

パートナーシップは、世界中の国々—そして、子どもに対する暴力撤廃のために活動しているすべての人々—に対し、彼らが得た教訓と、見出した最善の方法を共有するために1つの方法を提示します。これは、私たちがともに、より良い活動を行う上で役立ちます。

国家レベルにおいて、グローバル・パートナーシップはそのメンバーを通じ、国家が子どもに対する暴力を終わらせることを優先事項にすることを助けます。私たちはともに、子どもに対する暴力を防ぎ、罰する法律を強化し、暴力によるインパクトを減らせるよう、子どもに対する暴力に対応する方法を改善します。暴力の危険に最もさらされている人々が情報と支援を得られるように支援するため—そして、組織、コミュニティ、家庭において暴力は容認されるという考え方を変えるため—私たちは懸命に活動します。

すべての子どもは、暴力のない子ども時代を送る権利があります。そしてすべての社会にはその最も若いメンバーを守るべき理由があります。守られ大事にされて成長した子どもは、より健康で充実した生活を送りやすいでしょう。彼らは社会を—そして私たちが共有する世界を—より公正で健全な未来に導く職業につく可能性、能力、意欲がより高いのです。

子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)を支援することにより、この極めて重要な活動に参加してください。

アンソニー・レーク

前ユニセフ(国連児童基金)事務局長

子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ設立共同議長



戦略

ビジョン

すべての子どもが暴力を経験せずに成長する世界

ミッション

子どもたちにとってより安全な社会をつくり、あらゆる場における子どもに対する暴力を撤廃する

方針

権利に焦点を当てた

子ども中心の

普遍的な

ジェンダーへ配慮した

包摂的な

透明性の高い

エビデンスに基づく

成果主義

ゴール

1

政治的意思の構築

- 1.1 すべての国々が、すべての子どもに対する暴力撤廃のために行動することを誓約する
- 1.2 子どもに対する暴力と、それを防ぐために必要な行動が、国家、地域、グローバルレベルで論議(ディスコース)の対象の一部となっている
- 1.3 あらゆる場面での暴力と搾取を撤廃するための資金増加が、すべての国で見られる

2

活動の迅速化

- 2.1 すべての国々が、オンラインを含む暴力と搾取から子どもを守るための国内法令、政策、プログラムを承認する
- 2.2 パスファインディング国は、子どもたちに、包括的で、コーディネートされた多分野にわたるサービスへのアクセスをより多く提供する
- 2.3 紛争下の状況や移動の途中も含め、暴力の影響を受けた子どもが、子ども中心のサービスとプログラムにアクセスできる

3

協力の強化

- 3.1 持続可能で国家を超えた行動と学びのためプラットフォームを支援する
- 3.2 学びと相互の説明責任を促進し、加速するためにグローバルなフォーラムとして機能し、標準的な状況に対する推奨を提示し、進捗を報告する
- 3.3 知識、エビデンス、データを作成し、広める

推進させるもの

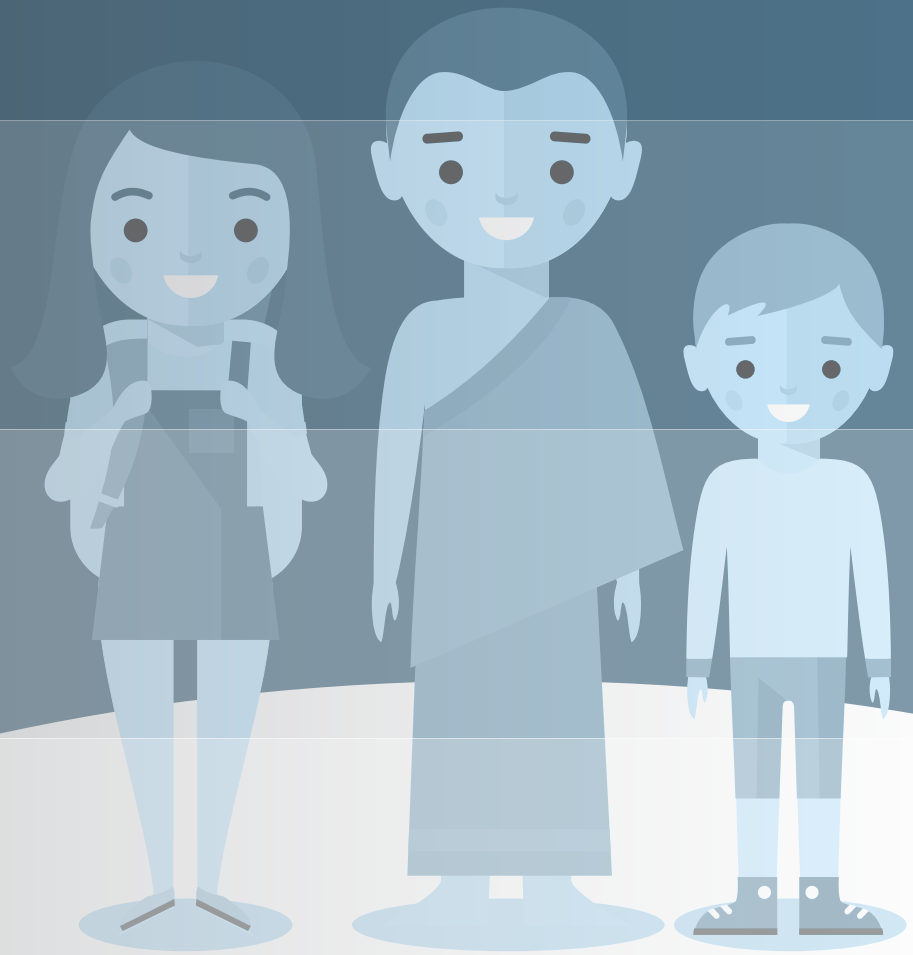
ムーブメントの構築

財源とリソース

データとエビデンス

モニタリングと評価

行動事例



2015年、世界のリーダーたちは持続可能な開発目標(SDGs)の一環として、2030年までに子どもに対するあらゆる暴力を撤廃するという約束をしました。これは、世界の最も尊い財産である子どもを守るための、世界、国、地域でのムーブメントを、一つにまとめることになる歴史的機会となりました。この果敢なチャレンジを一すべての国々、全てのコミュニティ、全ての家庭において一達成するために、「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ」(GPeVAC)が創られました。

言葉の解説

機関 (Agencies)

国連、政府を構成する各部門で、独立しているが、しばしば働きをともにする

アジェンダ (Agenda)

やるべきことの一覧表

市民社会 (Civil Society)

関心事を共有しグループでともに行動する一般の人々

協働 (Collaboration)

協力して働くこと

エビデンス (Evidence)

ある事柄が真実か偽りかを示すための事実、あるいは数値

国際的な (International)

国家間の

個人間の暴力

(Interpersonal violence)

戦争や紛争下の暴力ではなく、人と人との間の暴力

国の (National)

国家の

政策 (Policies)

政府、グループ、政党等によって定められた施政上の方針や方策

政治的意思 (Political will)

国、地域、市町村において物事が動く方法を変えるための強い意志

リソース (Resources)

プロジェクトを実行する上で必要なすべての物—お金、人材、技術的支援等

サービス (Services)

プログラムによって提供される様々な形の支援

戦略 (Strategy)

計画を実行に移すための考え方と方針をまとめたもの

サミット (Summit)

大規模で重要な会合



なぜ？

毎年、少なくとも10億人の子どもが暴力にさらされています。5分ごとに世界のどこかで暴力のために1人の子どもが命を落としています。暴力の蔓延は、もはや容認したり無視できるものではありません。国連事務総長による2006年の調査は次のように述べています：

子どもに対するどのような暴力も正当化できません；子どもに対するすべての暴力は予防できます。もはや言い訳は許されません。[. . .] もし子どもに対する暴力を承認したり容認し続けるなら、私たちの誰も、子どもと目を合わせることはできません。

「移動を余儀なくされた」とは？

家を離れたくないのに離れなければならない人々を「移動を余儀なくされた」人々と言います。それらの家族は、戦争、飢饉、干ばつ、貧困などが原因で、国内のどこか別の場所に移ったり、あるいは国を離れなければならない場合があります。

世界中で、子どもは衝撃的なレベルの身体的、性的、心理的暴力に直面しています。子どもたちは、性的、経済的目的のために大人に利用されたり、大人になる前に結婚を強要されます。ある国々で伝統的に行われている、少女の性器を切除する、女性器切除と呼ばれる有害な慣習の犠牲者も多くいます。子どもが他の子どもに対して暴力を振るうこともあります。

これらは、最も富める国から最も貧しい国まで、すべての国々にとっての問題です。どの社会も子どもを大切にし、守りたいと望んでいますが、子どもは組織、学校、コミュニティ、そして家庭においてさえも危険にさらされています。文明を成り立たせる基礎—家庭—が、子どもにとってしばしば安全な場所ではないのです。暴力はどの年齢の子どもにも影響を与えます。少女、少年どちらにもインパクトがあります。多くの子どもが成長過程において、暴力を繰り返し受ける、あるいは彼ら自身が虐待者になるというサイクルにはまっていくのです。

紛争と危機において、まず苦しむのは子どもです。2億4,600万人近くの子どもの10人に1人の世界の子ども—が戦争や別の緊急事態のために引き裂かれた社会で生活しています。多くの子どもが、子ども時代のすべてを、家から遠く離れ、家族から引き離された状態で過ごしています。世界で移動を余儀なくされた人々の約半数は子どもです。自国内で、または国外へ避難した難民かもしれません。亡命を望んでいるのかもしれないし、どの国の市民権も持っていないのかもしれない。彼らはすべて、虐待、ネグレクト、暴力、搾取（性的搾取を含む）、人身取引や、子ども兵士として徴用され、犠牲になる危険がより大きいのです。

前子どもと武力紛争に関する国連事務総長特別代表、レイラ・ゼルギーは次のように主張します：

「戦争による子どもの犠牲者は、私たち（私たちすべて）が集団として守れなかった少年少女たちです。子どもへの深刻な権利侵害を終えるために迅速な対応を求めることは私たちの責任です」

暴力の苦しみは長く続きます：

- 暴力から生き残った子どもは長期にわたって**身体的、精神的被害**に苦しみます。脳は正常に発達ができず免疫機能も悪影響を受けます。一生を通じ不健康に苦しみ、早期に死亡する可能性が高くなります。
- 暴力のために子どもは**質の高い教育**を受けることができず、**学習能力が低下**します。
- **仕事を不得て生計を立てる**力への負の影響はしばしば一生続きます。暴力の犠牲者は、その後雇用されない可能性が、そうでない人の2倍にのぼり、貧困のうちに生活する確率が非常に高いのです。

その結果、より多くの子どもが不必要に苦しみます。

そして**誰もがその代償を支払う**のです。子どもに対する暴力は世界経済の浪費です。各国が保健、教育、栄養のために使っているお金が、生み出すべき成果をもたらしません。暴力はまた社会をむしばんで破壊し、本当の意味での子どもの参加を阻み、政府、学校、警察、軍隊などの組織に対する信頼を失わせます。インドネシアの17歳の少年は簡潔に述べています：

「未来の繁栄のために子どもに対する暴力は終わらせよう」

身体と脳

虐待を受けた子どもの脳は**より小さくなる可能性**がある

免疫機能が損なわれ、癌になる危険がより高まる

成人しても年々健康を損ない、**より多くの時間を失う**

発達と人間関係

犠牲者は学校での成績が低く、**学校中退の可能性**がより高い

家庭内で暴力を目撃した子どもは自分自身が**攻撃的になる可能性**がより高い

繰り返し暴力の犠牲になった子どもは**気持ち**が落ち込む**可能性**がより高い

危険な行動

身体的暴力の犠牲者は、後になって喫煙、薬物濫用する**可能性**がより高い

肥満になる可能性がより高い

自殺を試みる可能性がより高い

失われる可能性

暴力は**7兆USドル**、または世界GDP8%に相当する損失を生み出す

犠牲者は仕事の上で問題を抱える**可能性**がより高い

成人として経済的問題を抱える**可能性**がより高い

なぜ今？

社会の最も若いメンバーに対する暴力の問題は、その頑固さ、巨大さ、深刻さゆえに私たちが結束してこの悲劇を終わらせることを求めています。何年にもわたって、聞こえのよい、重々しい約束が繰り返し交わされ、耳に響いてきました。希望の兆しと、緩やかな進展は見受けられます。しかし今日まで子どもが受け続けている不必要な苦しみに匹敵するほどの暴力に対する憤りの広がりはありません。国家戦略は断片的で力を持たないか、存在しません。暴力を阻止する努力のためにはほとんどお金が使われていません。今、私たちにはエビデンス、法律、政策があります。もはや言い訳はできません。私たちに残されたすべきことは、子どもに対する暴力を永久に撤廃できるよう、これらのプログラムを実行し、拡大することです。

「子どもに対する暴力撤廃のための努力を加速させるために、国々は支援されなければなりません」

前セーブ・ザ・チルドレン・スウェーデン事務局長 エリザベス・ダリーン

倫理的に、そして実際問題として、もはや人類は、過酷な状況で苦しんでいる子どもたち…学校でいじめられている数百万人の子ども…ギャングによって射殺される子ども…戦争で一生障がいが残るような重傷を負う子ども、そして家庭から追い出される性的マイノリティの子どもに背を向けることはできません。彼らは全員、心と希望を持ち、将来のある、そして恐怖と無縁に生きるべき子どもなのです。一人ひとりの子どもが大切な存在です。

「私たちはお互い手をとりあい、緊急性をもって行動せねばなりません」

ノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティ 2016年世界人道サミットにて

したがって、持続可能な開発のための2030アジェンダは、子ども、特に最も暴力の危険にさらされている子どものための転機です。これによると、世界のリーダーは：

- 平和なくしては持続可能な開発はあり得ないことを認識します。すべての国は、すべての人間の人権と基本的自由を尊重し、守り、促進しなければなりません。
- “子どもたちに投資し、すべての子どもが暴力及び搾取から解放される世界”のビジョンを思い描く。このビジョンが、子どもの安心と安全を、子どもの生存と発達のためのグローバル目標とを明確に結びつけます。
- 子どもに対するあらゆる形態の暴力を撤廃し、すべての子どもが平和、公正で、違いを受け入れる社会で暮らす恩恵を受けられるようにすることを確実にするための一連の大胆なターゲット達成に同意します。これらの目標は完全で包括的な開発計画の一部です。

初めて、子どもたちの尊厳と、彼らが暴力と恐怖から解放されて生きる権利が、世界の開発課題において明瞭な優先事項として認識されています。

これは歴史的快挙です。私たちはこのユニークな機運を、暴力と恐怖のない世界への止めることのできない運動へと変えていかなければなりません。

マルタ・サントス・パイス 子どもに対する暴力に関する国連事務総長特別代表

2030アジェンダにおける子どもに対する暴力撤廃のためのターゲット

子どもに対する暴力を撤廃する…

16.2	子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する
5.2	人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女兒に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する
5.3	未成年の結婚、早期結婚、強制結婚、および女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する
8.7	強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する
4.7	すべての学習者が…平和と非暴力の文化を推進するため…知識を獲得できるようにする
4.a	すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする

…家族、コミュニティ、そしてあらゆる場面での暴力によるインパクトを減少させる…

16.1	あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる
11.2	…すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する…
11.7	…女性、子ども… 人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する…

…すべての人が公正で効果的な制度と司法へアクセスできるようにする…

16.3	国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する
16.9	…すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する
16.a	暴力の予防とテロリズム・犯罪の撲滅に関するあらゆるレベルでの能力構築のため、国際協力などを通じて関連国家機関を強化する

…効果的なマルチステークホルダー・パートナーシップを動かすことによって

17.16	すべての国々…での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する
17.17	さまざまなパートナーシップの経験やリソース戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

人身取引と搾取とは？

取引(trafficking)は単純に商品の取引、通常は不法な取引を意味します。しかし人身取引(human trafficking)について語る時は、大人または子どもを強制的に奴隷にするために売り、誘拐することを意味します。彼らは労働を強いられ、性的関係を強制されたり、兵士にさせられます。搾取とは、支配する相手を利用し、彼らが欲さないことをさせることを意味します。



解決の時

子どもに対する暴力を撤廃するためのターゲットは、行動への強い誓約がなければ意味がありません。

私たちは正しいことをしなければならないことを知っています。そして世界中から次々に集まるエビデンスは、子どものためにより安全な社会をどのように作れるかを示します。多くの公教育と変化への後押しとともに、正しい法律、システム、政策、投資を活用し、常にそれらが正しく用いられていることを確認することによって、意義があり、長く続く、測定可能な暴力の減少に到達することができます。同時に、私たちは犠牲者である子どものニーズに応えるためにより多くのことができるのです。

世界保健機関(WHO)事務局長
マーガレット・チャン：

「家庭、学校、職場、路上、そして遊び場で暴力を防ぐためには何が有効なのか、私たちは知っています。私たちは、必要な手段を取ることによって暴力の減少を成功させた政府から、インスピレーションを得るべきです。彼らは、暴力は本当に予防可能だと示したのです」

これが、なぜ新しいパートナーシップが非常に必要とされているかの理由です。アジェンダ2030は、子どもを助けるために活動するすべての国々とすべての人々に、ともに集い、すべての人々—特に最も貧しく、もっとも危険な状況にある人々—のために持続可能な開発を実現する行動を取るよう呼びかけています。パートナーシップは、真に変化をもたらすために存在するのです。

政府、国連機関、国際的組織、信仰に基づくグループ、企業、チャリティ団体、研究者、教育者、そして子どもたち自身を結集することによって、パートナーシップは、成功事例、教訓、他のパートナーシップの成果を積み上げることを目指しています。

私たちのゴールは：

- 恐怖から解放されて生きる子どもの権利を保障し、彼らが持続可能な開発目標(SDGs)の恩恵を享受できるよう、子どもに対する暴力撤廃の重要性を伝える言葉を広める。
- 暴力撤廃のための一つの戦略の背後で、力強い機運を構築し続けること。これは、大胆で測定可能な政策とプログラムを創る政治的意思を強化することを意味します。それにより、広範で継続する、測定可能な暴力減少につながっていきます。
- 子どもに焦点を当てながら、すべての国々と、すべての所得層において暴力撤廃に向けて活動します。暴力の危険にさらされている人々は新しい持続可能な開発アジェンダの恩恵を受けにくい傾向にあります。
- 暴力に打ち勝つためにすべての人々がそれぞれの役割を果たすことを確認しながら、社会すべてのメンバーのスキルとエネルギーを生かします。
- 暴力の予防と対応にはより多くのお金と時間が必要であることを主張するために、測定可能な暴力削減の成功例を利用します。

暴力の解決は、社会の中のすべてのエネルギー、スキル、リソースが結びついた時に初めて大規模に可能となります。このことは、仕事にせよ、ボランティアにせよ、また、政府、一般社会、企業、いずれの出身でも、子どものために働くすべての人々に手を差し伸べていくことを意味します。特に、女性と少女、少年、成人して間もない大人に対する暴力撤廃のために活動する人々、そして、争いを減らしすべての人々を含む公正な社会を築こうとしている人々と、強いつながりを作らなければなりません。暴力の犠牲者—少年、少女、女性—は多くの同じリスクを共有しています。現在では、予防と対応の問題を別々に捉えるよりも、一緒に取り組んだ方が、より多くの成功がもたらされるというエビデンスが示されています。

戦略



子どもに対する暴力を撤廃するためのグローバル・パートナーシップは、子どもに対する暴力を防ぎ、対応するために、政府、国連機関、国際機関、信仰に基づくグループ、企業、チャリティ団体、研究者、教育者、そして子ども自身が—今こそ行動の時、というより強い意識の下で—ともに活動する機会を提供します。

ビジョン

パートナーシップのビジョンは、**すべての子どもが暴力とは無縁に成長できる世界**です。すべての子どもとは、18歳未満のすべての子どもを指します。そしてパートナーシップは、性的虐待を含むあらゆる暴力、身体的、情緒的暴力、傷害と虐待、ネグレクト、残虐な行為や搾取と戦います。[暴力の定義、暴力の形態に関するより詳しい情報は27頁参照]

パートナーシップは虐待、搾取、人身取引、そして、あらゆる形態の子どもに対する暴力と拷問の撤廃を含む、持続可能な開発目標の達成を支援することを目指しています。他にも、女性と少女への暴力撤廃、子どもの経済的搾取撤廃のようなターゲットもあります。さらに、学校、コミュニティの中で子どもの安全を守り、そして平和と非暴力を促すことを目指すターゲットもあります。

子どもに対する暴力

あらゆる形態の身体的、精神的暴力、傷害と虐待、ネグレクトや怠慢な取扱いと搾取、性的虐待を含む

身体的

致命的、非致命的な身体的暴力

性的

あらゆる形態の性的虐待と搾取

情緒的

心理的虐待
精神的虐待
言葉による虐待
情緒的虐待

ネグレクト

故意に子どもを危険から守らないこと

ミッション

パートナーシップのミッションは子どもにとってより安全な社会を作り、あらゆる場所で子どもに対する暴力をなくすことです。さらなる価値として加えると、パートナーシップはただ人々やグループをまとめるだけではありません。一全体としてより良い働きができるために支援します。また、社会を横断して集まる人々が、一グローバル、地域、国、コミュニティのレベルにおいて一 共有する目標をともに達成する方法を提供します。

パートナーシップは、子どもに対する暴力は常により大きな構図の一部であることを理解しています。大人に対する、そして一般社会に存在する暴力と切り離して見ることはできません。私たちは常に自問しなければなりません。子どもに対する暴力のより深い原因は何なのか。暴力はある場所では容認され、良いとさえ見られているのか。パートナーシップは、子どもが成長の過程で直面する暴力のライフサイクルと差別について考察する必要があることも知っています。虐待を受けた子どもはしばしば、自分自身が加害者に成長します。いかなる形態の暴力も、子どもがいる家庭、コミュニティで減少しなければなりません。そして、子どもは公正で実際に機能している司法とサービス、制度にアクセスできる必要があります。そこで、パートナーシップは「恐怖と暴力のない平和で公正、包摂的な社会」(2015年9月25日の国連総会で採択された決議より)を作り出すために全面的で積極的な役割を果たす決意をしているのです。



方針

パートナーシップは子どもを最優先し、すべての働きにおいて常に高い基準を維持します。

協働の4つの基本方針

- 権利中心** 子どもの権利条約はパートナーシップの仕事の中心にあります。すべての子どもは一性別、年齢、能力や障がいの有無、法や養育上の立場、民族、宗教、社会的身分にかかわらず、暴力から守られる平等な権利をもっています。暴力を防ぎ対応するための如何なる行動も、すべての子どものニーズ、権利、最善の利益を顧みなければなりません。
- 子ども中心** 子ども自身が発言する権利を含む、子どもの権利とニーズが、私たちの主な焦点です。パートナーシップは子どもたちを、暴力に立ち向かうリーダーとして、また闘士として支援します。子どもの声を聴き、彼らの視点を尊重し、パートナーシップに実際に参加し、その意思決定に貢献できる表層的ではない実質的な方法を整えます。
- 普遍的** すべての国と、社会のすべての部分が、子どもに対する暴力を撤廃するための誓約に責任を持たなければなりません。パートナーシップはあらゆる地域、収入レベルの国々を支援します。私たちは、最も困難な状況にある子ども—紛争や危機によって傷ついた子ども、所得、階級、人種、性、宗教、市民権、障がい、非合法的な身分のために排除された子ども—に手を差し伸べるために、地域や、地元のパートナーとともに参加します。そして同時に、すべての子どもの安全と健やかな成長に向かって活動します。
- ジェンダーへの配慮** 暴力は、少女、少年、そして異なる性のアイデンティティを持つ人々それぞれに、異なるリスクをもたらします。性のアイデンティティへの配慮は、私たちが政策とプログラムをどのようにデザイン、実行、追跡し、試行するかにおいて中心課題となります。ゴールは差別を根絶し、ジェンダーの平等を実現し、すべての女性と少女たちをエンパワーすることにあります。

複数のパートナーがどのように協働するのかを明らかにする4つの方針

- 包摂性** パートナーシップは、世界中のパートナーたちあらゆる規模のグループ、年齢の人々を含む—が信頼と尊重に基づいて協働できる方法を提供します。
- 透明性** パートナーシップは、情報を共有し、成功だけでなく失敗も公開することにより信頼を築きます。子どもを含むすべての対象者とよいコミュニケーションを取ることを約束します。
- エビデンスに基づく** パートナーシップは最良の科学的根拠を用います。各状況に応じて異なる扱いがなされます。学ぶこと、教訓を共有すること、絶えず改善することを約束します。
- 成果主義** パートナーシップは結果を示します。そのことは、子どもに対する暴力撤廃のためのターゲットを実行する国々が、進捗を確認するのに役に立つでしょう。

ゴールと到達の方法

パートナーシップの3つのゴール：



これら3つのゴールは、機運を構築すること、資金及び他のリソース、信頼できるデータを追加すること、何が最も有効かを理解すること、という力がともに働くことによって支えられます。

GPeVACは、2018年9月に2021年までの新しい戦略を策定しました。ここからのページ（P15-18）に書かれている戦略は、2016年設立時に策定されたものです。

ゴール1

政治的意思の構築

パートナーシップは持続可能な開発目標達成と子どもに対する暴力撤廃のために政治的意思を構築し、それを持続させます。私たちの戦略は、推測ではなく事実と数値に基づきます。それらが、暴力減少—測定可能な減少—の効果を大きくし、継続させることにつながるのです。

1.1	すべての国々が、すべての子どもに対する暴力撤廃のために行動することを誓約する
1.2	子どもに対する暴力と、それを防ぐために必要な行動が、国家、地域、グローバルレベルで論議(ディスコース)の対象の一部となっている
1.3	あらゆる場面での暴力と搾取を撤廃するための資金増加が、すべての国で見られる

ほとんどの国が、子どもに対する暴力が深刻な問題であると受け止めています。しかし、暴力を本当の意味で減少させるのに必要な真剣な手段を講じると約束した国はほとんどありません。パートナーシップは、あらゆる暴力を撤廃するためにより迅速な行動を取るよう促します。国、地域、グローバルレベルでの議論をスタートさせます。そして、暴力を防ぐため、または効果的に対応するために成果をもたらすと確認されたプログラムに、より多くの資金、時間、人を投入するよう主張していきます。

1.1 すべての国々が、すべての子どもに対する暴力撤廃のために行動することを誓約する

世界の国々は、子どもの権利条約や他の人権条約に署名しています。つまり、子どもに対する暴力を防ぎ、また、暴力が発生する場で子どもを守るための拘束力ある約束をしたということです。パートナーシップは、国々がこの約束を守るために協働する方法を提供します。これにより、あらゆる暴力と搾取を撤廃するために国際的に同意されたターゲットを国が達成することを助けるでしょう。

1.2 子どもに対する暴力と、それを防ぐために必要な行動が、国家、地域、グローバルレベルで論議(ディスコース)の対象の一部となっている

パートナーシップは、暴力を防ぎ、対応するために必要な行動を取るのはもちろんのこと、人々が子どもに対する暴力の量や、どんな種類の暴力があり、どこで発生するのかを話すことを促します。人権と子どもの権利に関する、国際レベル、地域レベル、国レベルのルールとの全面的な連携を促します。

1.3 あらゆる場面での暴力と搾取を撤廃するための資金増加が、すべての国で見られる

アジェンダ2030は、子どもに投資し、すべての子どもは暴力と搾取を受けることなく成長するという世界の約束に基づいています。パートナーシップは、すべての国に対し、より多く資金面で貢献し、子どもに対する暴力の予防を予算とプログラムに含める現実的な計画を提示するよう強く促します。

ゴール2

行動の迅速化

パートナーは、子どもが直面している暴力に取り組むための行動を加速するため、ともに活動します。まず、暴力撤廃の機運を高めようとしている国々—私たちはパスファインディング国と呼びます—にフォーカスします。

2.1

すべての国々が、オンラインを含む暴力と搾取から子どもを守るための国内法令、政策、プログラムを承認する

2.2

パスファインディング国は、子どもたちに、包括的で、コーディネートされた多分野にわたるサービスへのアクセスをより多く提供する

2.3

紛争下の状況や移動の途中も含め、暴力の影響を受けた子どもが、子ども中心のサービスとプログラムにアクセスできる

持続可能な開発目標を通じて、すべての国が子どもに対する暴力撤廃を誓約しました。これには誰もが含まなければならないため、パートナーシップはこの誓約を達成するために行動する準備のある国の力になります。私たちは暴力を防ぎ、暴力に対応するために連携するあらゆる種類のサービスと、新しい法律に焦点を当てます。紛争下にある子どもに対しては、特別な注意が必要です。

2.1 すべての国々が、オンラインを含む暴力と搾取から子どもを守るための国内法令、政策、プログラムを承認する

パートナーシップは、すべての国に対し、既存の法律、計画、プログラムを見直し、必要に応じて変更すること、さらに、ジェンダーに配慮し人権に基づいた法律の作成を開始するよう促します。ゴールは、すべての子どもが安全、安心で、危険のない状態に置かれ、体罰、辱め、性的暴力から守られることです。

2.2 パスファインディング国は、子どもたちに、包括的で、コーディネートされた多分野にわたるサービスへのアクセスをより多く提供する

パスファインダー国とは、その国のリーダーが子どもへのあらゆる暴力を撤廃するための行動を支援すると誓約した国のことです。INSPIRE（INSPIREの囲み記事を参照）を用いてその誓約を現実のものとし、INSPIREによる計画は、その構成要素が連携し互いを強め合うとき、最も効果を発揮します。

2.3 紛争下の状況や移動の途中も含め、暴力の影響を受けた子どもが、子ども中心のサービスとプログラムにアクセスできる

暴力の影響を受けたすべての子どもは、実際に効果がある助けを得られなければなりません。パートナーシップは、すべての国の子どもが少なくとも保健医療や教育のような基礎的なサービスを受けることができるように、より多くの資金が使われるよう強く促します。紛争によって傷ついた子どもは、特別な注意が必要です。なぜなら、アジェンダ2030は、最も手を差し伸べにくい子どもを最優先にするという約束を含んでいるからです。

ゴール3

協力の強化

パートナーシップは、二国間、または多国間の協力、また、子どもの安全に関心のあるすべての人々、グループとの協力を強化します。彼らが共有する脅威を見据え、共通の解決策を見出し、子どもに対する暴力はその周囲にある暴力と切り離されないものだと理解するよう促します。パートナーシップはその努力とともに、既にあるパートナー同士の働きを後回しにしたり、変えることなく一力を加えて協働します。

3.1

国同士がともに学び活動する方法を支援する

3.2

世界のすべての国々がともに学び、互いに約束を守り、子どもを助けるために最善の方法を決定し、進捗を報告する一つの場を提供する

3.3

知識、エビデンス、事実、数値を作成し、広める。

アジェンダ2030は、すべての国が協力し、互いから学ぶ新しい方法を見つけるよう促します。近年多くの進展がありますが、十分なグループが協働しているとはまだいえません。パートナーシップの大切な役割は、国々がともに学び、知識を共有し、行動する方法を見つけることです。このため、パートナーシップは重要な点を多くの異なるグループに伝えます。政府と社会の異なる部門、たとえば保健医療、教育が垣根を超えて協力することを支援します。

3.1 国境を超えて行動と学習が生まれるのを助ける

子どもは、一国だけでは取り組めない国境を越えた脅威の増大に直面しています。各国は、暴力から子どもを守るためにそれぞれの経験を互いに学びあうことができます。パートナーシップは国同士、グループ同士が互いに学びあうことを可能にします。

3.2 世界のすべての国々がともに学び、互いに約束を守り、子どもを助けるために最善の方法を決定し、進捗を報告する一つの場を提供する

現状、国々が子どもに対する暴力を撤廃するために協働する方法はありません。このことが、子どもを助けるための最善の方法に合意することを困難にし、有用な情報を国同士で共有することを遅らせています。そして、暴力の予防と子どもの保護の実践が各地に散らばったまま、十分なリソースが不足したままの状態になっています。パートナーシップはこれらの問題を解決します。また、進捗状況、特に政府の取組の進展について報告します。

3.3 知識、エビデンス、事実、数値を作成し、広める

進捗を測ることができ、機能するプログラムを作る上で、知識、エビデンス、事実と数値に注目することは極めて重要です。何が機能し、何は機能しないのかを知ることがとても重要です。パートナーシップは、最新の知識とエビデンスがさらに発見され広まっていくことを後押しします。このことは、子どもに対する暴力の撤廃に向けたより良い方法を見つけ、そして将来のINSPIREのツールキットへの貢献となるでしょう。

推進する力

推進する力とは、ミッション、ゴール、ターゲットの達成に向けた活動を始め、支援する人々、知識、条件のことを指します。

a

運動の構築 – パートナーシップは活発な活動を継続して展開します。運動は、子どもへの暴力を撤廃する政治的意思を形成し、持続させる力になります。これが世界中の国や地域、都市や町にある暴力を撤廃するための行動を加速させます。さらに、子ども主導の組織を含む一般の人々のグループとともに、国同士の協働を手助けします。あらゆるレベルでの強固なコミュニケーションが、すべての努力にとって大変重要なものとなります。パートナーシップは、解決に向けた会議を開きます。これは、成功している国々とパートナーの成果に注目を集めるでしょう。会議では、子どもの生活に本当に変化をもたらしている働きに焦点が当てられます。

b

資金とリソース – 暴力予防のための資金は大半の国々で余りに少なく、そして多くの国々ではほとんどありません。現在まで、政府は子どもを安全な状態に保つためのシステム、プログラム、人材を軽んじてきました。そのため、パートナーシップにとって重要な推進役となるのは、活動を刺激して、国から国へと広げ、子どもたちのために真の結果を生み出す新しい基金です。パートナーシップは、暴力を予防するためにより大きな資金を投入することが、本当に大きな変化をもたらすことを、政府、チャリティ団体、企業に説得するつもりです。この暴力予防へのより多くの投資は、保健医療、教育、さらには子どもに対する他のサービスへの投資にもつながります。

c

事実、情報、エビデンス – パートナーシップは、力強いエビデンスを集め、用います。この問題に対する政治的意思を構築し、効果的な方法を見つけ、国々と人々による共有と学びを改善し、すでに行った活動の蓄積を行うために、調査、事実、数値を使います。パートナーシップは、事実と数値を収集するためにより多くのリソースを投入するように、政府と他のパートナーを説得します。暴力がどこで、どのぐらいの頻度で、なぜ子どもに影響を及ぼしているのか、といったエビデンスを確認します。このことは、暴力に立ち向かうための最善の方法と、必要な費用を知ることに役立ちます。

d

観察、そしてなにが効果的な方法かを確認すること – パートナーシップはその働きを世界中で共有します。その評価に関しても共有し、支出した資金がいかに適切に用いられたかを測ります。パートナーシップ自体が学びであり、暴力を防ぐためのアイデアがうまく機能するかを見つける方法を創り、共有します。

パートナーシップは どのように働くか



パートナーシップは、子どもに対する暴力を撤廃するために働くグループが集まり、より大きなインパクトを生み出すために互いの努力を組み合わせることを助けます。政府、国連機関、国際的グループ、一般人のグループ—信仰に基づくグループ、企業、チャリティ、研究者、教育者、そして子ども自身を含む—はこの巨大な試みの構造を形づくっているのです。

パートナーシップ

地球規模で

世界のいたるところで、パートナーシップはその戦略が子どものために結果を出せるよう助けます。政治的意思の構築、行動の迅速化、協働の強化により支援します。パートナーシップは、計画を実行することはしませんが、グループと国々が子どもをより安全にできると証明されている結果を得られるようなツールを提供します。目標は、2030年までに子どもへのあらゆる暴力を撤廃することです。グローバル・パートナーシップは、メンバー国とパートナー団体を通して活動しながら、国々がすでに有していることを学び、必要な場合には修正する手助けも行います。エビデンスと結果が国を導きます。子どもに対する暴力の予防と対応が意図された法律、行動計画、プログラム、サービスに、目を配ります。INSPIREを用いている国は2年毎に“ソリューションズ・サミット”に参加します。この重要な会合は国、国内外の専門家、この運動のリーダーたち—子ども自身を含む—が学んだ教訓を共有する場となります。

国において

国は、計画やルール、戦略づくりにあたってアジェンダ2030を用います。すべての国が、子どもに対する暴力を撤廃するというSDGのターゲットをできるだけ速やかに達成する方法を決定するよう促されています。これは、異なる国は独自の計画を持つことを意味します。他の国々がしていることをただ真似するのではなく、それらをもとに新たに計画を作成します。もし、協働の方法がまだない場合、国々はその方法を創ることも促されます。また国は、社会の異なる場所で子どもに対する暴力を撤廃するために活動している人たちの交流を図り、パートナーとすることが出来ます。INSPIREのアイデアを用いることで、国は国レベルの活動計画とロードマップを準備します。暴力を撤廃するためにまず何をすべきなのか、いつすべきなのか、誰が

責任を持ち、どのようなリソースが必要なのかを決定します。国はまた、2016年の世界保健総会で発表された「対人暴力、とくに女性や少女、子どもに対する暴力に対処するための保健システムの役割を強化する世界行動計画」に積み上げていくことも求められます。

メンバーシップ

パートナーシップは、様々な関心グループによる幅広いメンバーシップを有します。政府、国連機関、市民団体、信仰に基づくグループ、そして直接子どもとともに動いている人々、企業、チャリティ団体、教育者などが含まれます。パートナーシップのメンバーになることに興味のあるグループは、パートナーシップのビジョン、ミッション、方針にそって子どもに対する暴力撤廃を誓わねばなりません。参加は、オンライン、またはパートナーシップの事務局から可能です。但し、メンバーシップへの参加はグループのみに限られ、個人ではできません。

メンバーシップのルール

メンバーシップに参加する組織には次のことが求められます：

- 子どもに対する暴力を予防することに活動的であること
- 子どもに対する暴力撤廃のために協働することを誓約すること
- パートナーシップのビジョン、ミッション、方針に同意すること
- パートナーシップのゴールを支援するために行動すること
- 子どもに対する暴力撤廃のための行動計画の実行を誓約すること
- 子どもに対する暴力撤廃の計画のために自らのリソースと能力で貢献すること

パートナーシップの事務局はユニセフに設置されるため、ユニセフのルールが適用されます。ユニセフは、グループがユニセフの指針に同意しないと判断した場合、参加を認めないことがあります。パートナーシップの理事会も同様の判断をする場合があります。

参加にあたり、グループは以下の事柄に誓約することを求められます：

“当団体/組織/協会は過去4年間、母乳代替品、タバコ、武器産業、その関連子会社、またはそれらの製造、販売、流通に関与している業界団体と、どのような形であれ、正式に関与、連携したり、関係を持ったことはありません”

パートナーシップ・メンバーシップの利点

メンバーシップを得ることで以下の利点があります：

- イベントや他メンバーとの出会い、パートナーリストの入手、変化を起こすための他メンバーとの協働、何が起きているかのニュースを通じて、教訓を共有し、成功体験を発表できます
- パートナーシップのウェブサイトに掲載、また団体のウェブサイトがパートナーシップのサイトにリンクすることによって、より知られるようになります
- ウェブサイトでニュース、専門的情報、その他知識のリソースへ、また、更新された情報、雑誌、新聞、文書、政策、および専門的レポートにオンラインでアクセスできます

パートナーシップのロゴの使用については、事務局による事前の同意が必要です。

メンバーに期待されること

子どもへの暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップのメンバーが期待されることは以下の通りです：

- パートナーシップの利益のために活動する
- パートナーシップの戦略的計画の1つ、または複数のゴールに貢献すること
- 可能であれば、計画の実行を導くこと
- 国、地域、世界中の他のパートナーに話しかけ、知り、助けること
- パートナーシップの活動に時間、努力、そして/あるいはリソースを注ぐこと。これには、資金、労働、専門的知識、スタッフの時間、さらにラジオ、テレビ、新聞、インターネットを用いた支援、他のパートナーによる会議やイベントへの参加を支援することも含まれます

INSPIRE : 子どもへの暴力撤廃のための7つの戦略

世界保健機関が主導し、パンアメリカン保健機構、米国大統領エイズ救済緊急計画、トゥギャザー・フォー・ガールズ、国連児童基金(UNICEF)、国連薬物犯罪事務所、米国国際開発庁、疾病対策予防センター、世界銀行そしてパートナーシップによる協働で作成されたINSPIREパッケージには、連携することで子どもに対する暴力を撤廃するための7つの戦略が含まれます。



法律の施行・執行

(良い法律を施行し、それらの執行を確実にする)



規範と価値

(社会が何を標準とみなし、容認するか)



安全な環境



保護者や養育者への支援



収入・経済力向上



対応・支援サービス



教育とライフスキル

パートナーシップ

パートナーシップは、子どもに対する暴力撤廃を誓ったグループに対し、努力を組み合わせ、変化をさらに活かす機会を提供します。政府、国連機関、国際組織、信仰に基づくグループ、企業、チャリティ団体、研究者、教育者を含む市民社会、そして子ども自身がこの努力の構造を担います。メンバーとなることに関心のある組織は、パートナーシップのビジョン、ミッション、方針、ゴールへの支援表明が求められます。パートナーは、理事会が賛同した方針に従います。

パートナーシップは、事務局の仕事を監督するハイレベルな理事会とシニアレベルの執行委員会に導かれます。パートナーシップのガバナンスは、最初は組織立ち上げの必要に応えるべく設計されますが、パートナーシップの拡大とともに成長します。パートナーシップはまた、国レベルで適切な構成となるよう時間をかけます。

理事会

設立理事会は、ビジョン、ミッション、方針、戦略を支援します。パートナーシップの最高機関として、理事会はパートナーシップの活動を支援するため、知識、専門技術、資金を共有します。

パートナーシップにはあらゆる種類の人々とグループを含みます。理事会のメンバーはすべての国で子どもに対する暴力を撤廃するため、理事会への政治、資金面での支援を増大させる力となる経験豊富な人々です。設立理事会は、異なる種類のメンバーによる上限25席で構成され、うち約50%は政府を代表するメンバーで占められます。

執行委員会

執行委員会は、理事会の活動とパートナーシップの仕事を結ぶ最も重要なつながりを提供します。理事会が責任を持ちますが、執行委

員会はパートナーシップがどのように行動を起こすかを話し合い、決定します。パートナーが、パートナーシップが行っていることの一部を真に担っている、と実感するのを助けます。

執行委員会のメンバーは、パートナーシップのゴールを支援するため、それぞれのグループ内で変化を起こせるシニアの有識者、専門家そして/またはリーダーです。彼らはまた、パートナーシップを立ち上げる重要な時期に多くの時間とリソースを提供します。

設立執行委員会は12~15名のメンバーとなる計画です。知識とスキルを有するには十分な大きさで、効率的に働くためには小さくて適切です。

事務局

事務局はパートナーシップの日々の業務に責任を持ちます。理事会、執行委員会、そして基金の業務を支援します。

事務局は、ニューヨークのユニセフに設置され、ジュネーブで働く何人かのチームメンバーとともに戦略を主導し、プログラムを監視し、パートナーシップへの支援を集め、リソースを運用し、その働きを外に発信します。また事務局は、2年ごとに開催するグローバルな“ソリューションズ・サミット”を含め、教訓と最善の施策について議論の場を設定します。

国レベルで、パートナーシップは、行動計画の作成、実行をメンバーに依拠します。ギャップがある場合には、事務局が行動を起こし、支援や助言を与え、専門的な支援を見つけるように求められることもあります。



参考

子どもに対する 暴力の包括的な定義

暴力は、世界保健機関（WHO）によって「自分自身、他者、またはグループ、コミュニティに対し、脅しのため、または実際に行使する結果、傷害、死亡、心理的傷害、成長の阻害や貧困をもたらす、または、恐らくもたらす、物理的な力、あるいは権力の意図的な使用」（Krug et al. 2002）と定義されています。

個人、またはグループによって行われる、子どもの健康、生存、成長、尊厳を損なう、または損なう可能性のあるすべての形態の危害（暴力、傷害、虐待、ネグレクト、悪質な扱い、搾取にかかわらず）。

性的暴力

定義：以下を含むあらゆる形態の性的虐待と搾取：

- (i) 子どもに非合法的または精神的に有害な性的活動（コメントを強要したり嫌がる相手に言い寄ることを含む）を強要すること
- (ii) 商業的性的搾取のために子どもを使用すること
- (iii) 子どもの性的虐待を描いた音声素材または視覚画像で子どもを使用すること
- (iv) 子ども売春、性的奴隷制、旅行および観光における性的搾取、性的搾取目的の人身取引（国内および国境を越えて行われる）、性的目的または強制婚のための子どもの売買
- (v) 子どもに強制婚や早婚を強要したり、そのアレンジをすること

身体的暴力

定義：以下を含む致死のおよび非致死な身体的暴力：

- (i) あらゆる体罰、および、他のあらゆる形態の拷問、残虐な、非人道的なまたは品位を傷つける取扱いまたは処罰
- (ii) 大人および他の子どもによる身体的ないじめおよび通過儀礼
- (iii) 有害な慣行：女性器切除；四肢の一部または全部を切断すること、身体を拘束すること、傷または火傷を負わせることおよび焼印を押すこと；暴力的かつ品位を傷つける通過儀礼；悪魔祓い；男女産み分けと名誉犯罪；
- (iv) 非性的奴隷・人身取引・児童兵士を含む、身体的な児童労働に子どもに従事させること

情緒的暴力

以下を含む、不当な心理的取扱い、精神的虐待、言葉による虐待および情緒的虐待またはネグレクト：(a) 子どもを相手として執拗に行なわれるあらゆる形態の有害な関わり合い、(b) 恐怖心を煽ること、威嚇すること、および脅かすこと。搾取すること、および墮落させること。ないがしろにすること、および拒絶すること。孤立させること、無視すること、およびえこひいきすること。(c) 情緒的応答を与えないこと。精神的健康、医療上のニーズおよび教育上のニーズをないがしろにすること。(d) 侮辱すること、中傷すること、屈辱を与えること、けなすこと、からかうこと、および子どもの気持ちを傷つけること。(e) ドメスティック・バイオレンスを目撃させること。(f) 独居拘禁の状態、隔離状態、または屈辱的なもしくは品位を傷つける拘禁環境に置くこと。(g) 大人または他の子どもによる心理的ないじめおよび通過儀礼、携帯電話およびインターネット等の情報通信技術(ICT)を通じて行なわれるものも含む（いわゆる「ネットいじめ」）。

ネグレクトまたは怠慢な取扱い

子どもの養育に責任を負う者がそのための手段、知識およびサービスへのアクセスを有しているのに、子どもの身体的および心理的ニーズを満たさず、子どもを危険から保護せず、または医療、出生登録その他のサービスを利用しないこと。これには以下のものが含まれる。(a) 身体的ネグレクト：子どもを危害から保護しないこと（監督の欠如によるものも含む）、または基礎的な必要条件（十分な食料、居住場所、衣服および基礎的医療ケアを含む）を子どもに提供しないこと。(b) 心理的または情緒的ネグレクト：いかなる情緒的支援および愛の欠如、子どもに対して慢性的に注意を払わないこと、乳幼児の合図および信号を見過ごすこと によって養育者が「心理的に利用不可能」な状態になること、および、親密なパートナー間の暴力、麻薬濫用またはアルコール濫用にさらされることを含む。(c) 子どもの身体的または精神的健康のネグレクト：必要不可欠な医療ケアを与えないこと。(d) 教育的ネグレクト：通学その他の手段を通じて子どもの教育を確保するよう養育者に求めた法律を遵守しないこと。(e) 遺棄。

もっと知りたい人は (すべて英語サイト)

子どもに優しい「子どもの権利条約」

<http://www.unicef.org/rightsite/files/uncrcchildfriendlylanguage.pdf>

絵で見るあなたの権利

<http://www.cypcs.org.uk/rights/picture/children>

子どもに優しい「世界人権宣言」

http://www.eycb.coe.int/composito/chapter_6/pdf/1.pdf

安全なあなた、安全な私

<https://resourcecentre.savethechildren.net/node/2833/pdf/2833.pdf>

世界最大のレッスン

<http://worldslargestlesson.globalgoals.org/>

国連事務総長の「子どもに対する暴力に関する調査」 子ども・若者版

https://www.unicef.org/violencestudy/pdf/Study%20on%20Violence_Child-friendly.pdf



この日本語版冊子はここにある団体に協力して作りました





**End Violence
Against Children**

THE GLOBAL PARTNERSHIP



Global Partnership Secretariat: secretariat@end-violence.org
Website: www.end-violence.org
Twitter: @GPToEndViolence